



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙つて

科学なのか、疑似科学なのか。この問題はおのずと解決する。なぜなら科学には自浄作用があるからだ。真実だけが残り、偽りは消える。

科学者が疑似科学をつのみにすることは、まずありえない。「果たして本当か?」と批判することで、科学は成り立っている。科学的検証は性悪説に基づく。つまり科学は「疑うこと」から始まる。

長年にわたり、いかなる手段によっても他の科学者が反証できなければ、科学的発見は客観性を持ち「真実」といつ名に変わるのである。

人類の世界観を変えた発見がある。アイザック・ニュートンは、近代以降の自然科学の根本をなす古典力学を確立させた。

いね 郁恵
もり 森

疑う尊さ

三百年余にわたり反証はなく、人工衛星も古典力学にしたがって地球を回る。チャールズ・ダーウィンはビーグル号航海時に多様な動植物相を深く洞察し、トマス・マルサスの人口論に刺激を受け、自然選択による画期的な進化論を提唱した。

科学の教科書では知ることとはない話だが、ニュートンは自説の新規性にこだわらぬ間、他の学者が自説を盗作したと裁判を起こした。ダーウィンもアルフレッド・ウォレスが同じ進化論に到達したことに動揺した。ウォレスの知らぬ間にふたりの共著論文を発表し、その中で自分の先見性を強調した。

これらの行動は一見、利己的にみえる。だが、膨大な時間を費やして自説を確立した天才の側に立てば「正当防衛」と言えなくもない。(名古屋大学教授)

2011.6.10